

経営比較分析表（平成29年度決算）

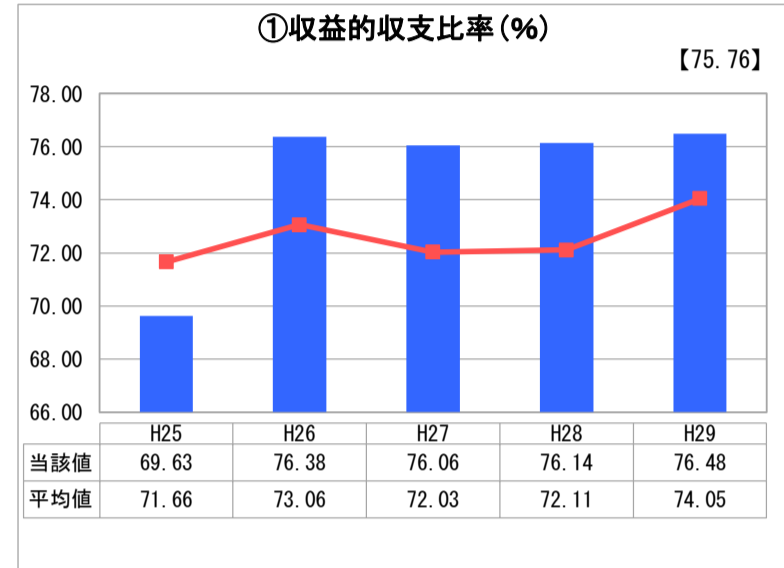
北海道 足寄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	3.36	4,530	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,061	1,408.04	5.01
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
233	9.20	25.33

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



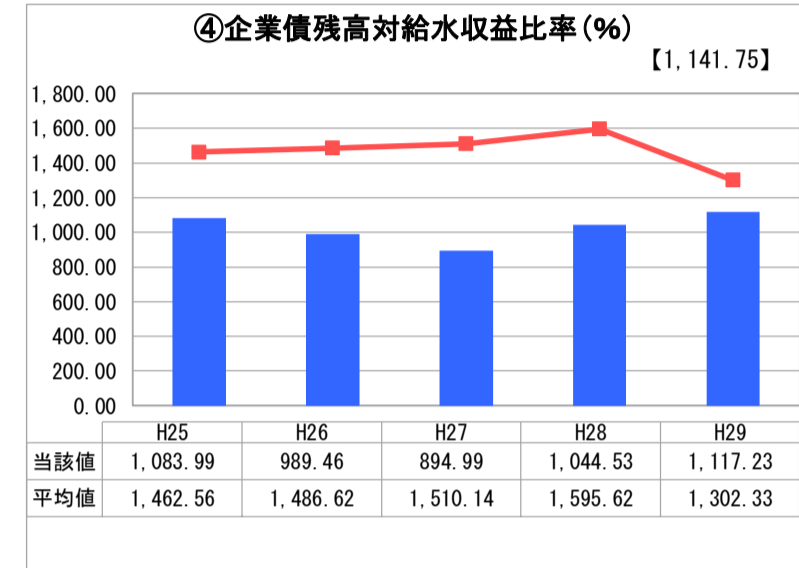
「単年度の収支」



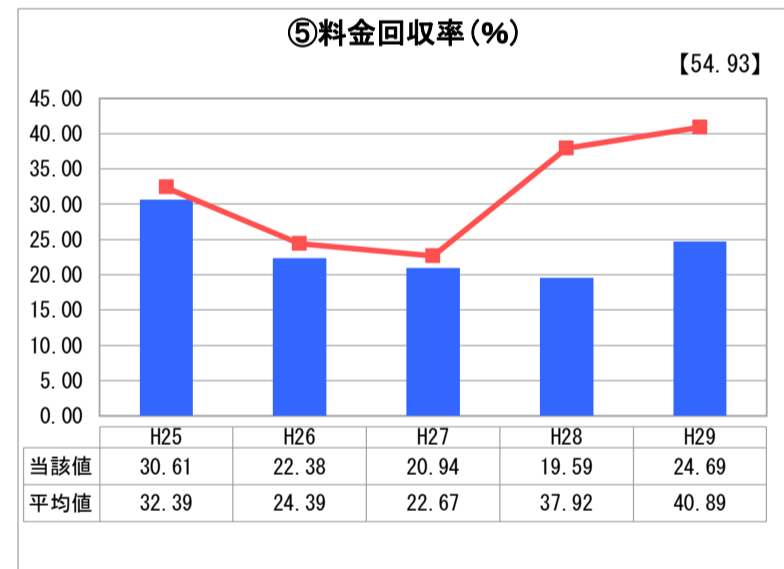
「累積欠損」



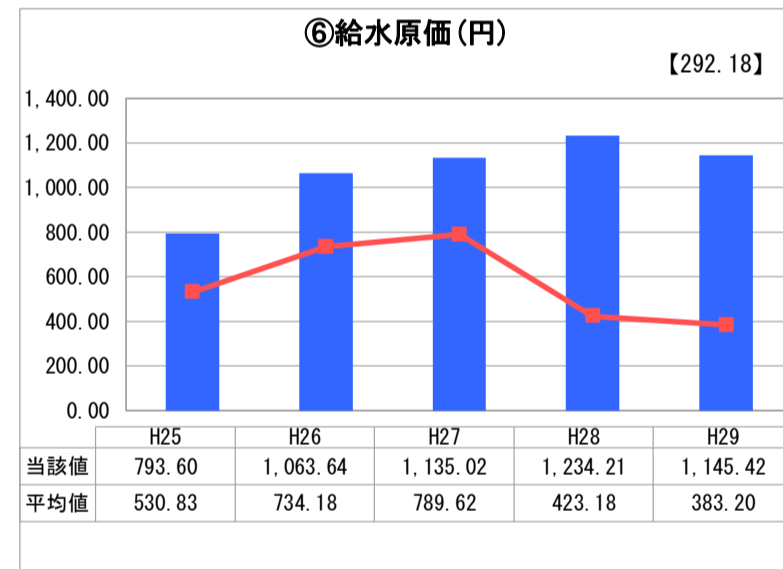
「支払能力」



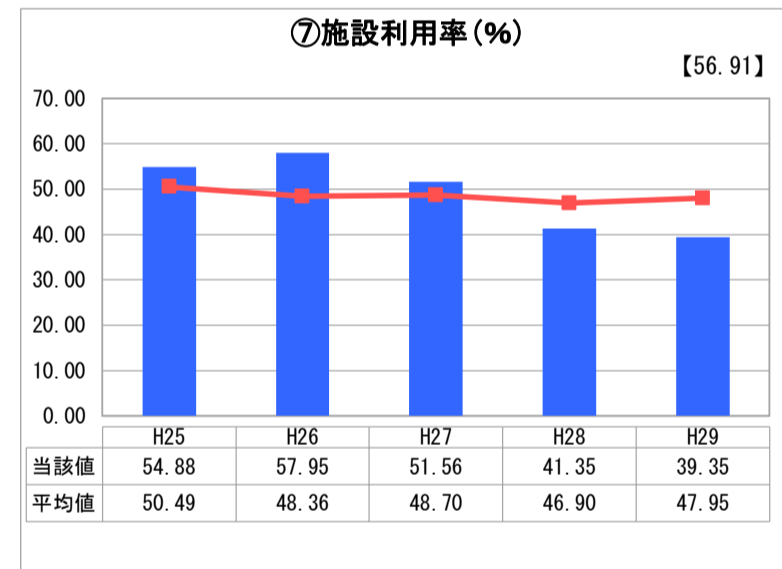
「債務残高」



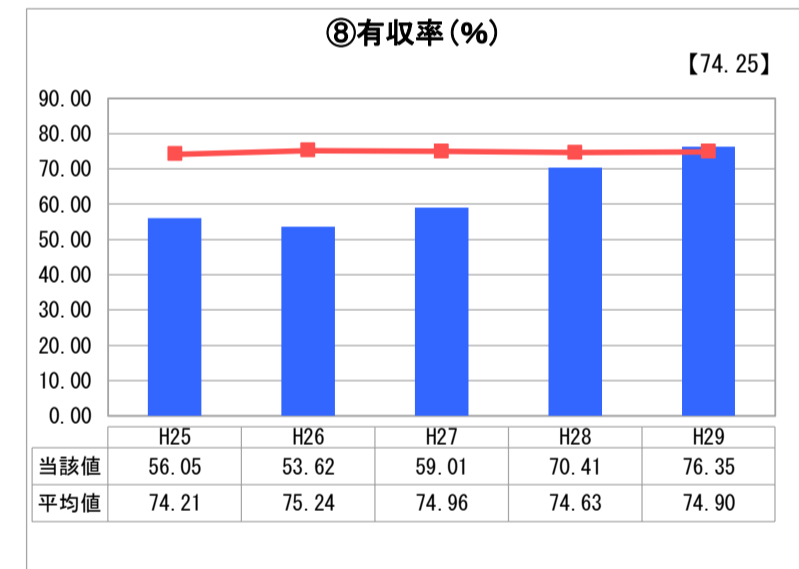
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

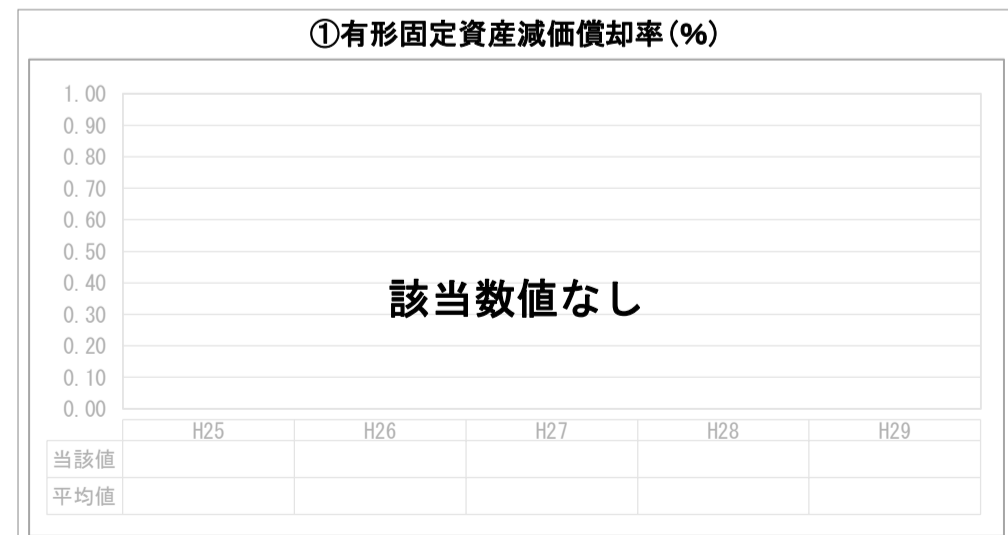


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

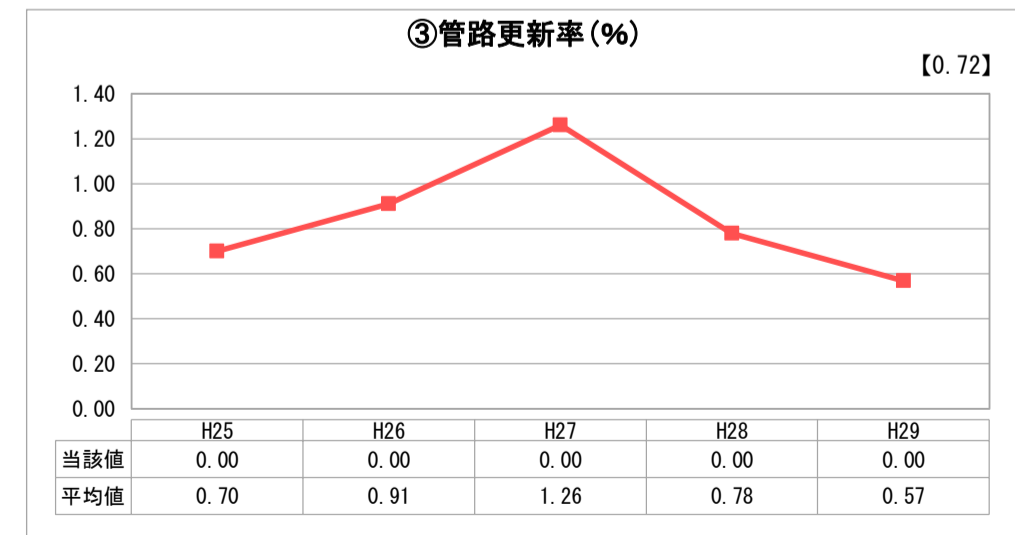
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本年度から料金の値上げ改定を実施しましたが、収益的収支比率は76.48%と、類似団体平均をわずかに上回ってはいるものの、依然として総収益で企業債の償還を含めた費用を7割程度しか賄えていない状況です。

企業債残高対給水収益比率においては給水収益が増加したものの、建設改良事業財源として企業債を借り入れた為、結果として前年比72.7%増加しました。

料金回収率は年々低下していましたが、料金収入の増加があって今年度は24.69%まで回復しました。しかし、類似団体平均と比較すると依然として大幅な差があります。本事業地域が大変広範囲かつ人口過疎地域であるため、計装装置や管路の整備等に費用が掛かる一方で、料金収入の大幅な増加が見込めないことが給水原価の上昇を招いています。設備の更新等は企業債の発行に頼らざるを得ませんが、既存設備の保守管理経費をねん出するため、経費の圧縮を図っていく必要があります。

有収率は76.35%と、過去5年で最高の数値となりました。有収率の低下は配水管の漏水によるものが主であることから、計画的に漏水調査を行い、今後有収率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

現在簡易水道地域に敷設されている管路の老朽化が進んでいますが、費用上の理由により敷設替えのできないまま様々な要因で漏水が発生している状況です。しかもその殆どが小さな水漏れ程度の漏水であり、漏水調査をしてもその範囲が大変広大なため、実態を把握することが容易ではありません。漏水状況が通行止めなどの交通障害や人的被害を伴うものでもなければ、漏水の事実すら把握することが困難な状況です。

しかしながら、安定的な水の供給を行うために、今後計画的に施設修繕や管路敷設替えの費用を計上し、設備投資を行っていかねばなりません。

全体総括

類似団体平均と比べれば経営状況は平均的なものといえますが、簡易水道には人口過疎地域の水供給を担う役割があり、施設管理の難しさや給水人口の少なさを考えると、今後益々厳しい経営状況になることが予想されます。

それでも地域の違いが行政サービスの違いにつながるよう各機関と連携しながら簡易水道を保持し、経常経費の圧縮に努めることによって、継続的に安全な水を安定的に供給できるような経営を目指していきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。